

明日も元気で来いよ！

今日から2学期 家庭・地域のご協力ありがとうございました 教室に、運動場に、子どもたちの明るく元気な声が戻ってきました。

今年の夏休みは、全国的に猛暑日が続き、熱中症で救急搬送…交通事故や水の事故などといった報道がたくさんありました。そんな中でも、子どもたちは元気に過ごし、無事に2学期の始業式を迎えることができました。体調管理や安全な生活について、各ご家庭でご協力いただきましたことにお礼申し上げます。

さらに、天神祭をはじめ、ラジオ体操、菅南・西天満祭などの地域行事や昨日の大掃除でも、地域やPTAの方々が子どもたちのために熱心にお世話してくださいました。皆様のそんな姿にふれることで、将来、自分も地域に貢献できる大人になろうと思った子どもも多くいたと思います。ありがとうございました。



この夏休みは、オリンピックを観戦して寝不足の日が続きました。翌日の仕事を思うとテレビ観戦を控えるべきだとわかりつつ、ついつい見入ってしまう。案の定、次の日は、睡魔との戦い…でもまた次の日も見てしまう。勝っても負けても、選手がひたむきに競技する姿を見たくて、眠い目をこすりながらテレビをつける。そんな毎日でした。テレビの前で、思わず涙が出てくる。そんな方も多かったのではないのでしょうか。私も何度かありました。自分のことではなくて、人が懸命にがんばっている姿に心を揺さぶられて流す感動の涙は、その人の心根を深くします。植物は、根さえ枯れなければ、いつか花を咲かせ、実を結びます。人の心も同じ。いつか美しい花を咲かせ、すばらしい実を結ぶことができるように、心根を深くし、土を耕し肥料を与えてやるのが教育の役目ではないかと思います。

心根を深くする2学期に 今学期は、運動会、学芸会…と、子どもたちが活躍する行事が続きます。その練習では、時には、苦しくて止めてしまいたいこともあるでしょう。そんな時こそ、歯を食いしばってがんばってほしいです。そのことで、心根が深くなり、美しい花を咲かせることになるのだと思います。



大阪市西天満尋常小学校学校経営之要旨

夏休み中、調べたいことがあって、本校の沿革史を見ていました。その中に、明治35(1902)年から大正14(1925)年頃に作成されたと思われる「大阪市西天満尋常小学校学校経営之要旨」の紙が綴じ込まれてありました。おそらく、当時の校長先生(第五代多羅尾光利校長か第六代野村菊太郎校長)が学校経営の方針を記されたものだと思います。

経営方針の柱として次の八項目が示されていました。(原文は当時の漢字や仮名遣いで表記されています)

- (1) できるだけ自由で しかも規律を失わず
- (2) できるだけ新しくして しかも古きを捨てず
- (3) できるだけ親しくして しかも礼を失わず
- (4) できるだけ温かくして しかも強味を失わず
- (5) できるだけ静にして しかも動を失わず
- (6) できるだけ学理に従い しかも世の實際に背かず
- (7) できるだけ多くを求め しかも無理を強いず
- (8) できるだけ門戸を開き しかも世の濁に染まず

現代でも大切にしなければならぬ事柄が網羅されています。今から100年ほど前に示された方針とは、とても思えません。その時代に「自由」「新しく」「親しく」「温かく」…といった考えが、教育の世界で語られていたのです。しかも、一方に偏ることなくバランスを失わないこともきちんと述べられています。「できるだけ…」という表現には、「…でなくてはならない」といった強制的・義務的な意味よりも相手の主体性、自主性を重んじる思いが感じられます。

「不易流行」という言葉があります。「絶対に変わることがない部分を忘れずに、新しく変化しているものを取り入れていく」という意味です。当時の校長先生がこのような感覚を持っておられたのだと思います。

そんな校長先生が、今の西天満小学校の教育をご覧になって、どうおっしゃるでしょうか。お話を聞きたくなりました。

学習指導要領の改訂といった国レベルの教育改革の他、大阪市でも様々な施策が実施されています。そんな中でも、教育の「不易流行」を心に刻み込んでおきたいと思っています。